
日韓両言語の学習者の作文にみられる母語干渉の諸相

高木 南欧子 / 尹 亭仁

日本語教育の観点からは、韓国語母語話者の「助詞」、「アスペクト」の使用について誤用の抽出を書きことばから行い、整理を行ってきているが、2021年度は話しことばと対照する作業を加えている。また、母語干渉とみられる項目のいくつかについては、韓国語母語話者の日本語学習におけるフィードバックに反映させる試みを行ってきた。しかし、遠隔授業では効率的に行えないことから、問題に含めた形で提示させることを検討している。また、特にアスペクトに関しては、どのような状況を意図したアウトプットであったかがテキストだけでは不明であることが分かったため、将来的に聞き取り調査を行うことを検討している。

韓国語においては、2021年度前期に作文の課

題を集めることが容易ではなかった。後期になってから中級と上級のクラスを中心に毎週作文を集めている。今年度も昨年度に続き、中級以上のクラスで、助詞ニ・カラ・デ・ノの誤用例を取り上げ、注意喚起に努めている。カラの場合、対応する韓国語の助詞が共起する名詞(句)の意味によって8種類(에서/에서부터/부터/(으)로/(으)로부터/에게서/한테서/께)もあるため、干渉が頻出している。アスペクトについては、補助動詞「一ている」「一てしまう」に対応する韓国語の複数の補助動詞の用法について具体例とともに取り上げている。アスペクトにおいても助詞の誤用と同様に母語干渉を防ぐための有効な提示が今後の課題である。

